

### 第３回 野村ダム・鹿野川ダムの操作に関わる情報提供等に関する検証等の場 議事要旨

日 時：平成３０年１０月２５日（木）９：００～１１：００

場 所：大洲市立風の博物館 ２階「多目的ホール」

（より有効な情報提供や住民への周知のあり方）

○避難指示等の発令基準は、水位だけでなくダム放流量も見ながら、住民避難のロードタイムを考慮して検討してほしい。

○情報提供を手厚くしすぎると、かえって住民は依存体質となるため、住民の参加による議論や理解の促進が必要。

○平成３０年７月豪雨災害以上の洪水が発生することも想定して、各関係機関で被害想定を事前に共有し、ソフト対策に活用していく必要がある。

○平成３０年７月豪雨を踏まえ、国から市へのリエゾン派遣を行っているが、台風２４号の際の対応等、自治体としては非常に頼りになり、適切な判断が可能となっている。今後も引き続きお願いしたい。

○ダムの放流量等を危険度レベルで表示する情報のユニバーサルデザイン化を提案したい。肱川で試行実施してはどうか。

（より効果的なダム操作についての技術的考察）

○ダムの操作変更については、流域全体での合意形成を図りながら進めて行く必要がある。

○鹿野川ダムの改造事業の完成や河道の整備の進展により、ダムの操作が工夫できるようになる。ダム操作規則の変更は、流域全体に有益となることが重要。

○現在の気象予測の予想精度においては、洪水の大小や降雨の空間分布等に応じた柔軟な操作を操作規則に位置付けるのは困難であるが、将来的には実施できるよう考えていく必要がある。